

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600343		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 山法師		
所在地	苫小牧市日吉町1-2-23		
自己評価作成日	平成25年11月3日	評価結果市町村受理日	平成25年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanl=true&amp;JigyosyoCd=0193600343-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanl=true&amp;JigyosyoCd=0193600343-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営推進会議開催に地域の方に参加頂いたり、町内の老人会方、近所の小学生の訪問等があり、理解者が増えていく実感があります。町内会の行事にも、積極的に参加し交流を深めたいと考えています。

・入居者様との、個別ケアに力を入れています。一対一での対応・集団での対応等、いままで以上に、考えた支援を心掛けています。関わりを持つことで、精神的に落ち着いた環境になり、認知症と言う病気が安定するように、考えています。

・職員の意識改革の中で、考えた支援を目標に行っています。スキルアップすることで、入居者様、家族様からの信頼を受けられると考えています。又会社は教育研修に力を入れ、研修を重ねて所です。知識向上、モチベーションをあげてやりがいあふれる職場環境を目指しています。

・昨年、感染・虐待予防に対して担当の職員を配置、それぞれが、話し合いを重ね改善に繋がったと思います。今後も継続し、入居者様が安心した生活ができる様に、支援したいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム山法師」は、苫小牧の閑静な住宅地に立地し、向かい側に公園があるなど自然環境にも恵まれている。2階建ての屋内は、吹き抜けを中心にした回廊式の廊下になっており、共用空間は全体的に明るく清潔である。平成18年の開設後、本部の組織変更の中で管理者は現在までの経過を活かしながらも、新しい視点で職員が主体的に取り組むシステムづくりを進めている。本部指導の下で職員の育成を重視し、法人研修や内外の研修も計画的に行い、職員も各担当の役割を交代で受け持ち運営に参加している。運営推進会議では家族に質問事項の案内で意見をいただき、それに基づいて勉強会を行うなど内容も充実している。地震・水害を想定して避難場所への自主的な訓練を行ったり、町内会の避難訓練や「北海道シェイクアウト」にも参加して、地域の地形から起こりうる災害を想定して防災対策を熱心に取り組んでいる。地域を含めた緊急連絡網を作り、災害時の対応を協議しながら町内会との協力体制も築いている。毎月の会議前にケアなどの提言を全職員から収集し、職員は常に話し合いながら利用者の意向を尊重したケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(1Fアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時は、理念の説明を行い、又ホーム内に掲示し全員で共有実践に努めている	運営理念の中に地域密着型サービスの役割と意義を盛り込み、理念にある「この街と共に」を大切に実践している。利用者と共にという言葉に、職員は年長者としての尊敬を重ねて意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の古紙回収・ごみ拾い他行事に参加、積極的に交流に努めている。	町内会の新年会や活動に参加し、近所からはフェルト布や清拭用の布をいただくなど身近な交流を深めている。保育園児が手作りの作品をもって訪問したり、数人の小学生が遊びに訪れることもあり、子供との交流が楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ボランティア・町内会・老人クラブの方々にホームでの行事、支援内容を報告し、理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催、利用者への取り組みなどを報告、意見を頂き、向上に繋げている	会議では各報告の他、ハザードマップを基に事業所内で訓練した結果を報告し、地震や水害について討議を重ねている。「質問事項」の案内で家族の意見を収集してミニ勉強会を開いている。次回は、病気のテーマを予定しており、有意義な会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告事項、相談等に連絡を取り合い、協力関係を築いている。	市の介護福祉課の担当者が運営推進会議に参加しており、常に相談できる関係を築いている。事例について担当者で相談し、行き来しながら一緒に解決につなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、担当者会議を行いマニュアル等に基づき拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルにある「禁止の対象となる具体的な行為」を理解し、管理者、リーダー、担当者で事例を基に確認している。カンファレンスでは接遇の資料を用いて、不適切なケアを取り上げ、担当になった職員が気付いた言葉がけや対応を報告し、職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、担当者会議を行いマニュアル等に基づき拘束をしないケアに取り組んでいる。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議にて、包括支援センター担当者を招き、勉強会を開き、権利擁護についての理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、キーパーソン・家族様に説明、又質問等に対して十分に説明を行い理解を頂き、契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置したり、運営推進会議等での、意見を頂き、運営に反映させている。	家族の来訪時などにも意見をいただき、内容を管理者とリーダーで話し合い、カンファレンスで職員とも対応を話し合っている。意見は「家族連絡ノート」や介護記録に記載し共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議等で、事業所の運営の報告を行ったり、職員からの提案を聞く機会を設け反映させている	会議前に全職員の意見や提言を収集して議題にし、ケアの提言や業務の改善などを討議して方向を決めている。職員は各担当を交代しながら受け持ち、運営にも参加している。リーダーとの個別面談後に、管理者とも面談の機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の研修を行ったり、勤務条件を変更するなど、各自がやりがいを持ち、働きやすい様に、職場環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社では、職員研修に力を注ぎ、事業所では、職員の個別力量を把握、出来る所を伸ばし、出来ない事を、どのようにしたら良いか自ら考える力を付けて頂く様に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やネットワークづくり等に参加し、事業所との交流を深めサービスの質を向上させる取り組みに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に耳を傾け傾聴し、また調査表、基本情報に基づいて本人との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や不安に感じていることに耳を傾け、ご家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり、緊急性がある事多く、職員が寄り添うチームケアで支援に努めている。又、病院でのリハビリが必要と判断した場合は、ご家族の協力を頂きながら、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にとって一番心地よい暮らしは何か？どうすることが、安心できるのか？職員が汲み取る姿勢を持ち共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が寄り添い支援に努めている。又、病院対応については、ご家族の協力を頂きながら、共に関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所に訪ねて来られた時には、訪ねて来られやすい環境に配慮し、関係が途切れない様努め、又手紙やはがき等で交流を持っている。	家族の協力で、馴染みの美容室や以前に住んでいた場所に出かけている。遠方の家族とは定期的に電話や手紙を交換し、利用者と散歩中に切手を買ったり、ポストに投函するのを手伝っている。受診の帰りに、昔釣りを楽しんでいた海の近くをドライブすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で、利用者同士の関係を把握し、職員が間に入り良好な関係づくりに配慮している。又レク等に参加頂きお互いに楽しい時間を共有できる様に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、来訪して頂いたり、訪ねたりし、病院等にお見舞いに行くなど良好な関係を築けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を把握し、センター方式を活用、心の声を感じとり、カンファレンス会議等で、本人本位に検討を重ねている。	センター方式を活用しているが、新しい情報は毎月の会議資料で情報を蓄積して計画に取り入れている。言葉が少ない利用者には表情や動作を見て問いかけ、個別の思いを把握している。	センター方式のシートも活用し、利用者目線から情報を蓄積し、計画に活かされるような工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報とご家族様からの情報で把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が、1日の過ごし方・心身の状態、有する力等感じ取り、カンファレンス等で、話し合い、どのように支援する現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議時に全職員からの支援での課題・意見・アイデアでのレポートの提出を毎月してもらい対応している。	担当職員は毎月利用者の状態をモニタリングし、3か月毎の介護計画の見直し時に評価している。それらを基に介護計画作成者は、本人・家族の意向を入れて更新計画を作成し、確認している。介護計画を参照しながら、日々の記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	同上と毎日の引き継ぎ・介護記録・連絡ノートにより、情報を共有実践し、介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、往診・受診・緊急時など必要と思われるサービス支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校・保育園。町内会行事・ボランティア等に関わりを持ち支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関については、本人・家族の意向に沿って決定して頂き、事業所は、スムーズに医療を受けられるように、支援している。	協力医療機関の体制を説明し、希望のかかりつけ医を決めている。受診時は家族が対応し、必要な場合は情報を渡しているが、体調不良や緊急時には職員が同行して説明を受けている。受診の内容や医療情報を個人ファイルに綴じて経過を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの協力医の訪問介護師が月2回訪問され、日常の情報や気づきを伝達して頂き、病院と連携が図れる様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等を作成、病院関係者と情報交換や相談に努め、退院後も連絡できる関係を築いている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日ごろから、ご家族様と話し合いを行い、状況の変化時にも話し合いを繰り返している。又病院関係者とも、支援の相談を行っている。	「重度化した場合の対応に係る指針」に看取りの考えを明記し、利用開始時に医療行為が継続する場合は入院方向の説明で同意を得ている。主治医と関係者で、その都度方針を確認して可能な限り対応している。方針の内容は個人別に記録して保管している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護職員が、救命の研修に行き、全職員への研修を繰り返し、急変に備えて訓練を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練の他火災・津波の災害時の避難訓練を行う。又運営推進会議等で、地域へのご協力をお願いしている。	避難訓練には、町内会役員も誘導後の見守りで参加している。地震・水害を想定し、避難場所への誘導を自主的に行う他、町内会の避難訓練や「北海道シェイクアウト」にも参加し、災害に備えている。災害備蓄品の整備は本部と検討中である。	本部との話し合いで、各種の災害を想定した備蓄品類の整備を期待したい。地震災害など、ケアの場面ごとを想定し、職員間で安全面の確認を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、各自の状況に応じた、声掛けや見守りに対応している	利用者の職歴を把握して、対応や声かけに配慮している。申し送り時の引き継ぎやトイレ内の排泄用品の保管は、個人が特定できないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思確認の声掛けを行い、言葉にできない方には、表情などから思いを汲み取り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活状況での様子を把握し、本人のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、清潔におしゃれに気を遣い、又整容にも、配慮支援している。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳・調理・後片付け等出来る範囲で、共に行っている。又盛り付け味付け・色取りに気配り支援している	利用者の好みに応じて、食材を活かして献立を変更したり、誕生日には本人の好きな献立にしている。畑で収穫した野菜が食卓に上る事もある。敬老会行事で、ホテルでの外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で、バランスの良いメニューが提供されており、個別には、刻み・トロミ・お粥対応など、食事量・水分量確認、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後の口腔ケア(歯磨き・舌ケア・義歯洗浄)を行い、個々の状況に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状況を把握し少しでもトイレでの排泄を心掛け対応している。排泄の失敗があるからと言って直ぐにリハビリとは、考えない対応を支援している。	声かけが必要な利用者のみ排泄を記録してパターンを把握し、昼夜共にトイレでの排泄を支援している。昼夜の時間帯に応じて、布パンツやリハビリパンツを使い分け、パットの使用が少なくなるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に排便予防(水分・運動・食事)での内容を検討し予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各入居者様が週2~3回は、確実に入浴楽しめる様対応、又入浴時の意思確認を行っている。	午後の時間帯で、入浴時間の長さや同性介助、利用者同士での入浴など、可能な限り利用者の希望に応じた対応を行い、入浴が楽しめるように配慮している。リフトを使用して湯船に入る事で、入浴拒否が改善した事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を尊重し時々の状況を考慮し良眠される様支援している。又、館内の照明やテレビの音量も注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を職員全員に配布し、把握するよう努め、服薬時は、飲み込み確認を行い、又身体・精神状況の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式活用から生活歴から本人の好きな事等を把握し、本人が楽しんで頂ける様支援している		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に散歩に行かれたり、外気浴等を行ったりしている。又外出行事も計画し随時支援している。	天候に応じて、車椅子利用者も一緒に向かい側の公園に出かけたり、庭先のベンチで外気浴を楽しんでいる。花壇の手入れや畑仕事を手伝う利用者も居る。焼き肉の夕食やふれあいコンサートに全員で出かけたり、お花見などの外出を個別に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の理解や希望で自由に所持され、スタッフ同行で買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持されており、使用時混乱された場合は支援電話の取次ぎを行っている。又手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を取り入れた室内装飾や、入居者様の写真を飾り、温かい家庭的な雰囲気造りに工夫しています。担当者を決めマンネリ化しない様に工夫をしています。	吹き抜けを中心にした回廊式の造りで、大きな窓に面した居間や食堂は明るく、清掃が行き届いた清潔感のある共用空間になっている。各ユニットの玄関には、クリスマスツリーなど季節感を感じる装飾が施されている。廊下にも椅子やテーブルを配置して、個別に落ち着いて過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室・リビング・和室など適切に居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具類を使用して頂き、TVなどの持ち込み、個別に応じた対応、各部屋には、湿度計を設置し居心地よく過ごせる様工夫している。	タンスや机、三面鏡、レコードプレーヤーなどの使い慣れた物を持って来ている利用者が多く、その人らしい落ち着いた居室になっている。ベッドの位置や向きにも配慮して、寝起きがスムーズに出来るように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に配慮し手摺り・エレベーターを設置し対応している。居室のネームプレート・トイレ等の案内表示して工夫している。		



### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600343		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 山法師		
所在地	苫小牧市日吉町1-2-23		
自己評価作成日	平成25年11月3日	評価結果市町村受理日	平成25年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ
--------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600343-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600343-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2F アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時は、理念の説明を行い、又ホーム内に掲示し全員で共有実践に努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の古紙回収・ごみ拾い他行事に参加、積極的に交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ボランティア・町内会・老人クラブの方々にホームでの行事、支援内容を報告し、理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催、利用者への取り組みなどを報告、意見を頂き、向上に繋げている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告事項、相談等に連絡を取り合い、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、担当者会議を行いマニュアル等に基づき拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、担当者会議を行いマニュアル等に基づき拘束をしないケアに取り組んでいる。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議にて、包括支援センター担当者を招き、勉強会を開き、権利擁護についての理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、キーパーソン・家族様に説明、又質問等に対して十分に説明を行い理解を頂き、契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置したり、運営推進会議等での、意見を頂き、運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議等で、事業所の運営の報告を行ったり、職員からの提案を聞く機会を設け反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の研修を行ったり、勤務条件を変更するなど、各自がやりがいを持ち、働きやすい様に、職場環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社では、職員研修に力を注ぎ、事業所では、職員の個別力量を把握、出来る所を伸ばし、出来ない事を、どのようにしたら良いか自ら考える力を付けて頂く様に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やネットワークづくり等に参加し、事業所との交流を深めサービスの質を向上させる取り組みに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に耳を傾け傾聴し、また調査表、基本情報に基づいて本人との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や不安に感じていることに耳を傾け、ご家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり、緊急性がある事多く、職員が寄り添うチームケアで支援に努めている。又、病院でのリハビリが必要と判断した場合は、ご家族の協力を頂きながら、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にとって一番心地よい暮らしは何か？どうすることが、安心できるのか？職員が汲み取る姿勢を持ち共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が寄り添い支援に努めている。又、病院対応については、ご家族の協力を頂きながら、共に関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所に訪ねて来られた時には、訪ねて来られやすい環境に配慮し、関係が途切れない様努め、又手紙やはがき等で交流を持っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で、利用者同士の関係を把握し、職員が間に入り良好な関係づくりに配慮している。又レク等に参加頂きお互いに楽しい時間を共有できる様に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、来訪して頂いたり、訪ねたりし、病院等にお見舞いに行くなど良好な関係を築けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を把握し、センター方式を活用、心の声を感じとり、カンファレンス会議等で、本人本位に検討を重ねている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報とご家族様からの情報で把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が、1日の過ごし方・心身の状態、有する力等感じ取り、カンファレンス等で、話し合い、どのように支援する現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録を基に、日々話し合いを持ち、今何が必要かその日その日に対応、又ご家族様と共に、病院等に相談に行き、支援に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートにより、情報を共有実践し、介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の状況に応じて、往診・受診・緊急時など必要と思われるサービス支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校・保育園。町内会行事・ボランティア等に関わりを持ち支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関については、本人・家族の意向に沿って決定して頂き、事業所は、スムーズに医療を受けられるように、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの協力医の訪問介護師が月2回訪問され、日常の情報や気づきを伝達して頂き、病院と連携が図れる様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等を作成、病院関係者と情報交換や相談に努め、退院後も連絡できる関係を築いている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日ごろから、ご家族様と話し合いを行い、状況の変化時にも話し合いを繰り返している。又病院関係者とも、支援の相談を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護職員が、救命の研修に行き、全職員への研修を繰り返し、急変に備えて訓練を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練の他火災・津波の災害時の避難訓練を行う。又運営推進会議等で、地域へのご協力をお願いしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、各自の状況に応じた、声掛けや見守りに対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思確認の声掛けを行い、言葉にできない方には、表情などから思いを汲み取り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活状況での様子を把握し、本人のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、清潔におしゃれに気を遣い、又整容にも、配慮支援している。		

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳・調理・後片付け等出来る範囲で、共に行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に、刻み・トロミ・お粥対応などし、食事量・水分量確認、支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後の口腔ケア(歯磨き・舌ケア・義歯洗浄)を行い、又洗口液を使用する等個々の状況に応じた支援をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況を把握しおむつの使用を減らすよう様トイレでの排泄に心がけている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を確認、便秘になると不穏になる事を理解し、歩行運動を心がける。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各入居様が週2は、確実に入浴楽しめる様対応、又入浴時の意思確認を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を尊重し時々の状況を考慮し良眠される様支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を職員全員に配布し、把握するよう努め、服薬時は、飲み込み確認の支援を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式活用から生活歴から本人の好きな事等を把握し、本人が楽しんで頂ける様支援している			

ふれあいの里 グループホーム山法師

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に散歩に行かれたり、外気浴等を行ったりしている。又外出行事も計画し随時支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、対象者がいませんが、ご家族の協力の元、出来る限り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、電話の取次ぎを行っている。又手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れた館内のディスプレイも定期的に変え、心地よく過ごせる様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室・リビング・和室など適切に居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフの手作り表札を居室の入り口へ掲げ各部屋に湿度計を設置心地よく過ごせる様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に配慮し手摺り・エレベーターを設置し対応している。居室のネームプレート・トイレ等の案内表示して工夫している。		



目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム山法師

作成日：平成 25年 12月 1日

市町村受理日：平成 25年 12月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	センター方式のシートも活用し、利用者目線から情報を蓄積し、計画に活用されるような工夫を期待したい。	センター方式の用紙を一部活用し、今年度の状況を書き加え、個別のケアに活かし、計画に活かされるようにする。	センター方式用紙を活用し、構築する。又計画に沿った関わりを番号表示し、記入する。	12か月
2	35	本部との話し合いで、各種の災害を想定した備蓄品類の整理を期待したい。地震災害など、ケアの場面ごとを想定し、職員間で安全面の確認を期待したい。	災害を想定した、備蓄を用意する。 職員が意識を持ち対応できる様に、訓練する。	職員間での連絡網を作成する。 備蓄品の用意。 年2回の防災訓練に加え、自主訓練を行う。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。